

令和 2 年 5 月 13 日現在

機関番号：11101

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2019

課題番号：15K02555

研究課題名(和文)北陸日本海域における往来物を活用した日本語史の解明

研究課題名(英文)A study of the Japanese history using OURAIMONO documents in Hokuriku region

研究代表者

郡 千寿子(KOHRU, Chizuko)

弘前大学・教育学部・教授

研究者番号：50312476

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：北陸日本海域に所在する往来物資料について、書誌的文献学的な紹介とともに、その分布と偏在状況を提示した。近世期における北陸の諸地域の教育環境や文化的背景を考察検討するうえで、それら資料が重要な示唆を与えてくれるものであることが判明した。

研究成果のひとつは、今まで知られていなかった新資料を発見し、地域の教育事情を検討考察したことである。もう一点は、新潟は江戸出版の資料の割合が大きく、石川では、距離的に近い関西(京都・大阪)出版の資料数が多いなど、北陸の地域特性や地域間格差の一面を明らかにしたことである。

研究成果の学術的意義や社会的意義

地域に残存する文化資源の往来物資料について、新たな利活用を提案発見したものであり、関西文化圏と東北文化圏、北陸文化圏の関係性を分析した研究成果は、今後の地域文化や社会発展に寄与するものである。

また往来物資料は、語彙や地理、歴史、理数系といった分野以外に芸術に関わる記載もあり、異分野連携研究の可能性のある点でも意義がある。

研究成果の概要(英文)：This research presented an uneven distribution of OURAIMONO documents in the Hokuriku region with its bibliographical and philological introduction. The results also demonstrated those documents played an important role in order to discuss the educational environment as well as socio-cultural settings in such regions as Ishikawa, Toyama and Niigata during the early modern period. There are the following two significant achievements in this study. Finding and introducing some unread documents. Clarifying the regional variations in terms of their cultural intercourses many documents printed in Edo were found in Niigata prefecture while many documents printed in Kansai region such as Kyoto and Osaka were more brought into Ishikawa prefecture.

研究分野：日本語学

キーワード：往来物 北陸 北前船 日本海域 日本語史 言語生活 地域格差 文化交流

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 往来物研究の背景

往来物は、近世から近代において、知的文化的ネットワークを形成し、生活規範確立に寄与してきた、日本社会の近代化に関わる重要な資料群である。2001年には『往来物解題辞典 図版編』『往来物解題辞典 解題編』(石川松太郎監修、大空社)が刊行されたが、資料数も膨大であることが予想され、種類も多岐にわたるため、発掘や整理が不十分で研究が進んでいない状況にあった。

(2) 科研費基盤研究(C)の採択

2007～2009年に「北東北における近世庶民生活に関する研究 往来物資料からの解明」と題した研究テーマで、2011～2013年に「東北日本海域における近世言語生活に関する研究 往来物資料からの分析」と題した研究テーマで、科研費基盤研究(C)に採択された。これらを契機として、東北地域に所在する往来物の資料調査を継続的に実施することができた。その結果、書誌的紹介だけでなく、資料の偏在をはじめとして、地域間格差や特性を明らかにしてきた。言語文化の反映や社会に及ぼした影響を解明するためには、さらなる往来物資料の研究が重要不可欠であり、調査地域の拡大が必要であるとの考えに至ったものである。

2. 研究の目的

(1) 東北地域における研究成果をふまえて、本研究では、日本海域の文化圏を想定し、北陸地域の所蔵往来物について、その資料性を解明する。書誌文献学的調査を実施し、研究基盤の整備を行う。

(2) 北陸地域(石川、富山、新潟)のそれぞれの地域ごとの相違性や共通性について明示する。

(3) 北陸地域の文化背景や言語生活の実態、日本語の歴史に関して、往来物資料を活用し、その有用性について提示する。

3. 研究の方法

(1) 北陸地域(石川、富山、新潟)に所蔵されている往来物資料を調査する。該当資料の有無を確認し、選別を行い、原本の書誌的文献調査を実施する。

富山県公文書館 高岡市立中央図書館 長岡市立中央図書館互尊文庫
新潟県立図書館 石川県立図書館

(2) 書誌的調査を経て、文献資料の内容を精査し、目的別に以下の領域に分類整理する。

教訓科往来 社会科往来 語彙科往来 消息科往来 地理科往来
歴史科往来 産業科往来 理数科往来 女子用往来

(3) 書誌的調査を経て、文献資料の出版地域を特定し、分類整理する。

江戸 京都 大坂 その他

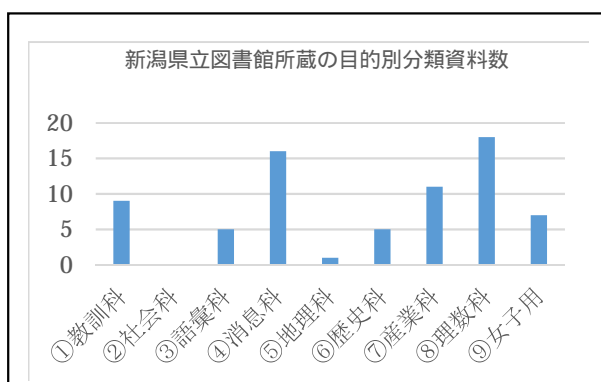
(4) 地域ごとの偏在状況を整理し、考察検討する。

目的別による所蔵資料数、出版地域別資料数を比較検討し、共通性や相違性を検討する。往来物の所蔵状況の研究成果を整理する。

(5) 文献資料を内容面から精査する。

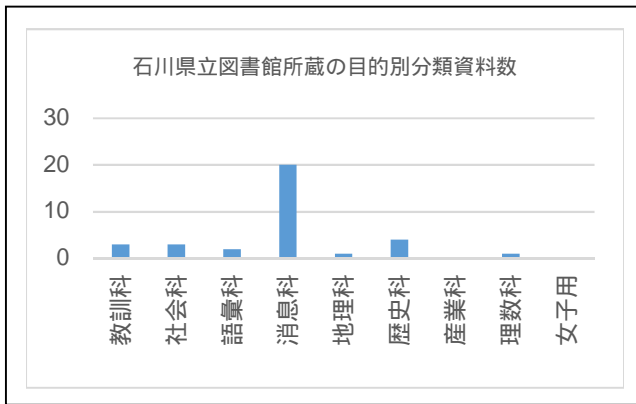
地域社会、生活文化、言語生活、教育背景等について考察検討する。
東北地方と関西地方、北陸地方の文化的影響関係について分析する。

4. 研究成果



(1) 本研究は、東北地域所蔵の往来物資料の調査研究を発端として、北陸日本海域にも調査対象地域を拡大し、地域社会における言語生活の反映や文化形成に果たした役割を解明し、新たな視点からの往来物資料の活用を提案しようとするものである。

すでにすすめてきた東北地域所蔵資料との比較検討も目的のひとつである。東北日本海沿岸地域は、当時の中央であった江戸でなく、京都や大坂といった関西文化圏との交流が密であった。距離的には江戸の

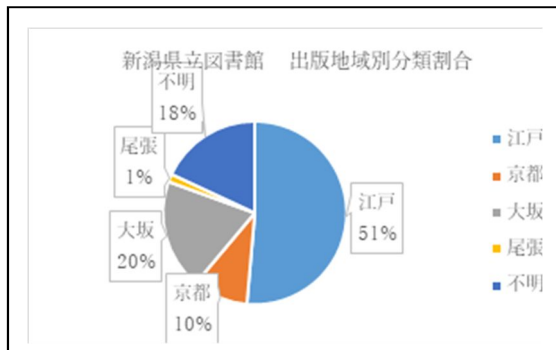


方が近いにも関わらず、関西文化圏からの影響を色濃く受けていたのであるが、日本海域を接する北陸地域はどうであったか。

近世期における北前船を利用した西廻り航路の存在は重要であり、陸路だけでなく、海路での物資輸送とともに文化の流入や混交があったと推測できるが、北陸における状況について、往来物資料調査を通して、出版文化の流入状況をグラフと数値で明示して検討した。

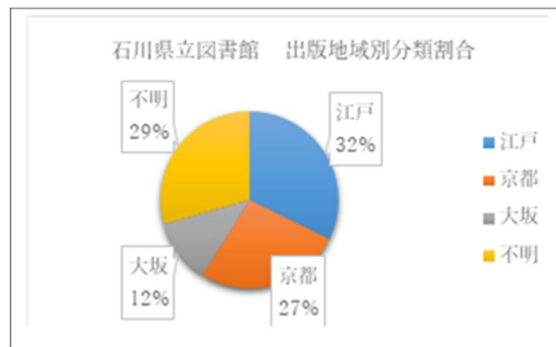
(2) 富山においては、富山県立公文書館で6本、高岡市立中央図書館で4本の資料が確認できた。資料数は少ないが、それぞれに高堂家、小新家、佐渡家、清水家で受け継がれてきた資料であり、実際に使用された場所や人が特定される確証として貴重である。地域の教育環境や文化的背景を知らせてくれるものとして重要であり、書誌の文献調査結果とともに資料の紹介を報告した。従来、高岡は、戦災の影響で残存資料がほとんどないと思われてきたが、往来物資料が大切に保存保管されてきた地域の教育水準の高さを示した調査結果であったともいえる。

(3) 新潟県立図書館では、未見未公開の資料が多数発見された。総数72本の所蔵が確認でき、目的別分類をグラフで示した。一般的に多いとされる 消息科より 理数科が最多であることが特徴的であった。出版地域別の分類で見ると、72本のうち30本が江戸の出版であり、約半数を占めていた。



長岡市立中央図書館では横山家文書に10本、斯道館文書に7本確認された。江戸の出版が多いことが判明し、新潟は関西文化圏より江戸文化圏からの影響が大きいことが予見された。

(4) 石川県立図書館にも多くの資料が確認でき、総計は34本であるが、目的別分類では、消息科が最多でほとんどを占めていることが知りえた。新潟県立図書館所蔵資料が多様な目的別の資料であったことと比して、その偏在状況が特徴といえよう。



また、出版地域別に分類整理してみると、不明資料が多いとはいえ、江戸が32%、京都が27%、大坂が12%であり、京都大坂を合わせた関西文化圏が江戸を若干上回るという結果となった。この点においても、新潟の様相とは違いがあり、興味深い結果を得ることができた。

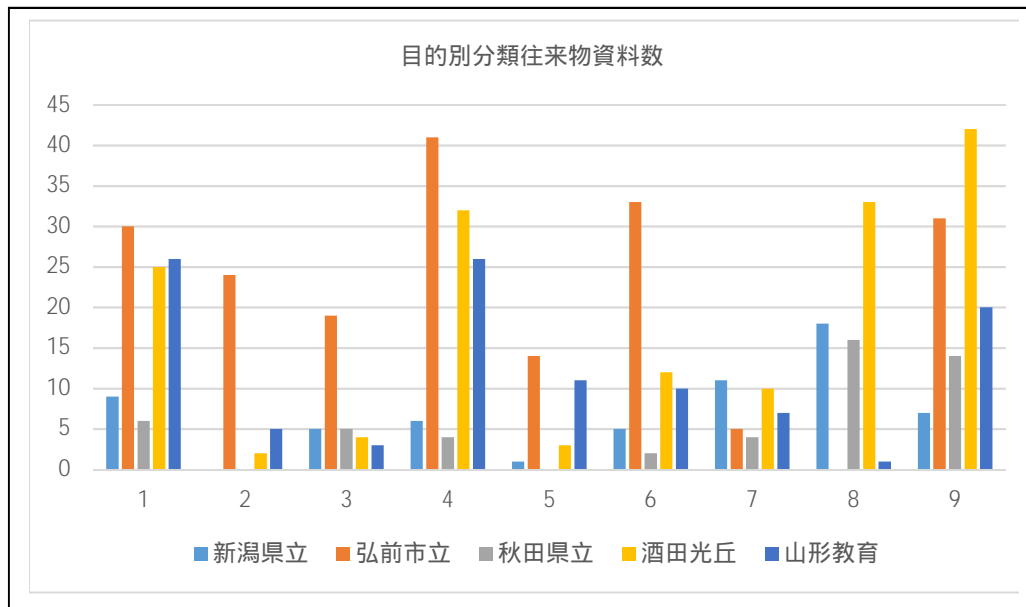
(5) 北陸地域の往来物資料の所在から総括すると、新潟では、関西よりも陸路による江戸文化圏からの流入が多く、石川は、距離的に近い関西からの影響と同様に江戸からの流入も多かったことが明らかとなった。

東北地域では、内陸部で江戸、日本海沿岸地域は関西、と分化している状況が確認できた。つまり、距離的には遠方であるはずの関西文化圏からの文化流入が大きいという様相が明らかとなったのである。しかし、北陸では、北前船による文化流入の度合いは東北ほど大きくなかった可能性がある。遠方である東北海域では、海路からの影響をより受けていたが、北陸では、距離的に近い文化圏からの影響が大きかったと考えることができる。

(6) 具体的記載からの研究成果としては、女子用往来資料の記載内容「いしい」を分析利用し、美味を意味する現代語「おいしい」が、江戸時代の女性用のことばが一般語化して男性にも使用が広まったこと等、その歴史の変遷を解明した。また、地理科往来資料の記載内容を分析利用し、

現代の「名所」である京都や奈良の地域観につながる観光イメージの形成過程を考察検討した。研究成果は、拙稿にまとめる他、国際学会での発表を積極的に行い、本研究の重要性について海外でも発信した。

(7) 近世期から現代まで、どのようにそれぞれの地域が関係性を構築してきたのか、往来物資料から明らかになることは多い。本研究では、北陸地域に焦点を絞ってすすめてきたが、たとえば、すでに行っていた、東北地域の目的別分類所蔵数を新潟県立図書館の調査結果と比較し、グラフ化すると以下ようになる。



社会科往来資料は、新潟県立図書館では全く所蔵がなかったが、弘前市立図書館では所蔵が多く目立っている。 消息科往来資料は、比較的資料の種類が多いことが知られており、所蔵数も多いと予想されていたが、新潟や秋田での所蔵数が少ないことは意外な結果であった。

理数科往来資料は、一般に作成された資料が少ないといわれており、所蔵も少ないと思われていたが、山形の酒田市光丘文庫でかなりの所蔵が確認でき、新潟県立図書館や秋田県立図書館にも多数確認できたことは興味深い。

本研究は、北陸での地域間格差や共通性の提示が中心であったが、東北地域の調査結果との比較によって、より広範囲にわたる地域特性の検討が可能となる。現代につながる地域の文化的社会的背景は、近世期からの名残であると考えているが、本研究成果によって、その手掛かりの一端を明らかにすることができたといえるだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計10件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 9件）

1. 著者名 郡千寿子	4. 巻 120
2. 論文標題 新潟県立図書館所蔵の往来物資料について 目的別分類の観点から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 郡千寿子	4. 巻 121
2. 論文標題 新潟県立図書館所蔵の往来物資料について 出版地域別分類の観点から	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 郡千寿子	4. 巻 118
2. 論文標題 長岡市立中央図書館文書資料室所蔵の往来物 横山家文書からの報告	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 郡千寿子	4. 巻 119
2. 論文標題 新潟長岡「斯道館資料」の往来物について	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 郡千寿子	4. 巻 117
2. 論文標題 味覚表現の「おいしい」と「うまい」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1 - 7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 郡千寿子	4. 巻 38
2. 論文標題 漢字表記「名所」をめぐる	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 弘前大学国語国文学	6. 最初と最後の頁 26 - 40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 郡千寿子	4. 巻 114
2. 論文標題 富山県立公文書館所蔵の往来物資料について	5. 発行年 2015年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 郡千寿子	4. 巻 115
2. 論文標題 高岡市立中央図書館所蔵の往来物資料について	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 郡千寿子	4. 巻 122
2. 論文標題 石川県立図書館所蔵の往来物について－特殊文庫における調査から－	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 郡千寿子	4. 巻 123
2. 論文標題 石川県立図書館 "川口文庫" 所蔵の往来物資料	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 弘前大学教育学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計8件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 3件)

1. 発表者名 郡千寿子
2. 発表標題 味覚表現の「おいしい」と「うまい」
3. 学会等名 韓国東亜大学 特別講演 (招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郡千寿子
2. 発表標題 日本における外来語受容の背景
3. 学会等名 台湾大学 日本学センター 特別講演
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 郡千寿子
2. 発表標題 日本における外来語受容の背景
3. 学会等名 中国文化大学 特別講演
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 郡千寿子
2. 発表標題 江戸時代の往来物資料と現代日本語研究
3. 学会等名 台湾大学 日本学センター 特別講演
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郡千寿子
2. 発表標題 日本語研究の展望－往来物と現代日本語－
3. 学会等名 中国文化大学 日本学科 特別講演
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 郡千寿子
2. 発表標題 形容詞「おいしい」の一般語化について 往来物資料からの検討
3. 学会等名 第4回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム（国際学会）
4. 発表年 2015年

1. 発表者名 郡千寿子
2. 発表標題 日本語の異分野連携研究の可能性 往来物資料を一例に
3. 学会等名 第6回中日韓朝言語文化比較研究国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 郡千寿子
2. 発表標題 観光地イメージ形成の背景－名所案内記からの検討－
3. 学会等名 東アジア日本研究者協議会第4回国際学術大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----